

## 第 25 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会 議事録

日 時：平成 26 年 10 月 2 日（木） 14：00～16：30

場 所：日本薬学会 長井記念館 1 階 AB 会議室

出席者：別記 1

配布資料：別記 2

### ○報告事項

#### 1. 平成 26 年度第 I 期実務実習実施状況について

資料 1（平成 26 年度第 I 期実務実習に関わる各地区の報告書）に基づき、1. 実習実施時のトラブルについて、2. 大学と施設の連携について、3. 実習に関する学生の意見、4. 実習に関する病院側の意見、5. 実習に関する薬局側の意見、6. Web による連携状況について、7. 評価実施について、各地区調整機構より主に下記の報告があった。詳細は資料 1 を参照。

#### 【北海道地区】

- ・指導薬剤師の指導が熱心過ぎて学生がパワハラに感じてしまい、実習先を変更した。
- ・指導薬剤師より実習生が年上で学生のプライドが高く、指導が難しかったケースが 2 例あった。
- ・実習先での入社勧誘が多すぎる。
- ・実習開始前に大学の先輩から実習先の情報を聞いたことや、希望とは異なる実習時期に決定したことによりモチベーションが低下した学生がいた。
- ・単位さえ取ればよいという態度で実習を行う学生がいる。

#### 【東北地区】

- ・いくつかトラブルが発生したものの、実習を中止した事例はなかった。
- ・トラブルについて大学に相談した後、連絡がなく困ったことがあった。早い段階での情報交換が必要である。
- ・学生：充実した実習であったとの意見が多かった。

#### 【北陸地区】

- ・指導薬剤師と学生間のコミュニケーションによる問題があったが、大きなトラブルにはならなかった。
- ・学生が 2 名いたので、互いに話し合い、刺激しながら実習を行うことができた。

#### 【関東地区】

- ・これまでと同様のトラブルが発生しているが、関東地区調整機構で作成したガイドラインに沿って対応し無事実習を終了することができた。
- ・「学生に服薬指導はさせられない」という考えの施設があったが、受け入れの際に教員から指導薬剤師に申し入れをし、最終的には 20 件の服薬指導をすることができた。また、同一施設で平日の実習時間が 9 時～19 時過ぎと非常に長く、学生が体力的に負担を感じていた。担当教員と指導薬剤師で何

度か話し合いを行ったが、実習終了まで改善されなかった。

- ・担当教員が実習施設訪問の際に事前連絡なしに大幅に遅刻し、指導薬剤師の業務に支障をきたした。また、その際の教員の謝罪姿勢が悪く、その後の訪問等の円滑な遂行を妨げた。
- ・学生の病気等の情報を事前に教えてほしい。
- ・日誌の書き方について大学でもっと指導してほしい。

#### 【東海地区】

- ・網岡委員長欠席、報告書の提出はなかった。

#### 【近畿地区】

- ・学生や大学に説明のないまま、学生が薬剤師として業務しているかのような写真が施設の求人広告やホームページに掲載された。大学、調整機構、薬剤師会から口頭および文書で抗議を行い、ホームページから写真が削除され、施設の顧問弁護士を通して文書による謝罪があった。また、同一施設で指導薬剤師の不在やパワーハラスメントの問題があったため、調整機構、薬剤師会、施設での話し合いのもと、Ⅱ期、Ⅲ期の実習予定学生を他施設に変更した。
- ・実習時間が9時～13時、16時～19時であり、昼休みが長く、学生が自宅に一時帰宅する時にも時間を要した。実習時間の変更を依頼したが、改善されなかったため他施設に変更した。

#### 【中国・四国地区】

- ・実習中に妊娠が判明した学生から実習を中止したいとの連絡があり、実習を中止した。
- ・学生が患者からストーカー行為を受けたが、実習施設の変更により実習を継続できた。
- ・薬局実習の施設間格差が大きいので改善してほしい。
- ・「薬局ニュース」という形で大学から施設へ業務の中で忘れがちなことについてFAXがあり助かった。

#### 【九州・山口地区】

- ・大きなトラブルは発生しなかった。各大学でトラブル防止委員会を作り、施設・大学間の情報を共有することでトラブルに対応している。
- ・5年次に実習施設から抗体の有無の確認を求められた。ワクチン接種後、大学で抗体検査まで行う必要があるのか、また費用面の対応について九州・山口地区調整機構会議で検討予定である。
- ・ふるさと実習において、大学からの実習前の連絡が遅いので改善してほしい。
- ・ふるさと実習において、大学ごとに訪問回数や日程が違うため対応に負担を感じた。
- ・ふるさと実習においても九州・山口地区調整機構で使用している評価記載の書式を使用してほしい。
- ・ふるさと実習において、実習施設決定後に実習費が高いという理由で実習を辞退することがある。施設によっては実習費が高いこともあるので、申し込みの際には注意していただきたい。
- ・実習終了後に行われる大学での発表会で、病院内の資料や患者情報の持ち出しがあり、その取り扱いが問題になったが、調整機構が大学に個人情報の取り扱いについて徹底し、大きな問題にはならなかった。
- ・薬学部以外にも他の診療科に実習生が入っており、各部門が切磋琢磨してよい経験になっている。

## 2. 平成 26 年度実務実習割り振り状況（関東地区）

資料 1-2（平成 26 年度実務実習割り振り状況（関東地区））に基づき、関東地区での平成 26 年度病院・薬局実務実習割り振り状況について須田事務局長が報告した。薬局、病院ともに、1 年を通して実習生の受け入れが 1 名または 2 名のみの施設が多く、調整機構で設けている受け入れ基準（病院：1 期 5 名まで、薬局：1 期 2 名まで）と照らし合わせて受け入れの実態は不十分であることがわかった。今後、良い受け入れ施設を増やしていくために、各地区調整機構での割り振り状況を関東地区調整機構の例にならって報告することを決めた。

## 3. 平成 25 年度実務実習実施結果および平成 26 年度在籍者数

資料 2（平成 25 年度実務実習実施結果）および資料 3（平成 26 年度在籍者数一覧）に基づき、須田事務局長が報告した。関東地区と近畿地区は地区外へ多くの実習生を出していることがわかる。ふるさと実習が広がってきている。

## 4. 文部科学省委託事業について（アンケート発送数、回答数について）

資料 4（文部科学省委託事業 アンケート調査の依頼および回答数）に基づき、医療提供施設へのアンケート発送数は 4,710 件、回答数は 1,820 件、大学への発送数は 74 件、回答数は 69 件であったことを須田事務局長が報告した。本アンケートの回答結果をもとに 11 月 5 日（水）に開催する薬学教育実務実習改善のための全国ワークショップ 2014（仮称）を進めていくこと、またワークショップには日本薬剤師会、日本病院薬剤師会からそれぞれ 10 名ずつ参加すること、ワークショップの詳細は 10 月 10 日（金）に最終決定する予定であることを須田事務局長が報告した。

また、平成 25 年度文部科学省委託事業（6 年制薬学教育で育成した薬剤師及び教育体制の評価に関する調査研究）報告書は近日中に社員および事業の協力団体へ配布予定であることを望月代表理事が報告した。

## 5. 文部科学省・薬学実務実習に関するガイドライン（案）

資料 5-1～-3（薬学実務実習に関するガイドライン（案）、枠組み（案）、実習期間（案）「文部科学省資料」）に基づき、薬学実務実習に関する連絡会議のワーキンググループ会議のメンバーである伊東委員、永田委員、政田委員、文部科学省の丸岡氏から説明があり、協議が行われた。主に以下のような意見が出された。

- ・実習開始時期を全国で統一する必要がある。
- ・実習開始時期が 2 月になると、大学のスケジュールにも影響が出る。
- ・4 期制での実習を立案した方から直接、進級判定等を含めどのように考えているのか具体的な話を聞きたい。
- ・4 期制での実習が可能であるか、全国でシミュレーションを行う必要がある。
- ・どの組み合わせならば実現可能であるか、実習施設にアンケートを取る必要がある。
- ・実習と実習の間隔が 2 週間～4 週間かによって大きく状況が変わる。
- ・実習施設の調整が大変になるかもしれない。
- ・先に実習を行った施設の情報を後で実習を行う施設に伝える必要がある。大学は今以上に実習

- に責任を持つ必要が出てくる。大学に丁寧に説明していく必要がある。
- ・病院と薬局の連携が重要になる。

今後、文部科学省の委員会で具体的な方針が決まり、文部科学省のガイドラインが提示されたときに各地区調整機構の意見を伺いたい、また必要があれば各地区調整機構の会議に出向き説明を行いたいと文部科学省の丸岡氏から発言があった。

また、6月に各地区調整機構に募った、連続性を持った4期制実習に対する意見を次回委員会（第26回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会）で報告することを決めた。

## 6. その他

前回委員会（第24回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会）にて、近畿地区調整機構の学生がふるさと実習終了直後に結核に感染したが、大学から中国・四国地区の当該病院薬剤師会に経過報告がないと手嶋委員より指摘があった件について、当該大学学長が中国・四国地区の病院・薬局に報告して対応したことを西野委員が報告した。

## ○協議事項

### 1. 「実務実習に関わる報告書」の報告について（見直し）

本委員会では「実務実習に関わる報告書」の報告にかかる時間が長く、協議や意見交換の時間が短い。会議のやり方を変えてはどうかと掛見委員から提案があり、協議を行った。次回委員会（第26回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会）からは、各地区調整機構は実務実習に関わる報告書を会議開催1週間前までに薬学教育協議会に提出し、薬学教育協議会は会議前に本委員会の委員に本報告書を事前配布し、会議当日は意見交換の時間を増やすことを決めた。

### 2. 各地区におけるふるさと実習に関する現在の問題点

資料6（各地区におけるふるさと実習に関する現在の問題点）に基づき、各地区調整機構から提出されたふるさと実習の問題点を望月代表理事が報告した。これに対し、割り振り開始時期を全国で統一できればより効率よくふるさと実習が進むのではないかと、薬科大学のない県へ実習生を送ってほしいなどの意見が出された。

また、ふるさと実習の問題点を解決するために近畿地区調整機構を代表とし、東北地区調整機構、関東地区調整機構、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会でワーキンググループを立ち上げることにした。薬学教育協議会事務局は事務担当として参加する。

### 3. 私立薬科大学協会から出された実務実習についての問題点等の検討

資料7（平成25年度私立薬科大学（薬学部）実務実習の問題点、改善要望事項「日本私立薬科大学協会資料」）に対して、各地区調整機構での対応状況を次回委員会（第26回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会）で報告することを決めた。この報告は、私立薬科大学協会の理事会または総会で報告する予定であると望月代表理事が説明した。

4. 認定実務実習指導薬剤師養成事業における問題点と改善について

ワークショップと座学講習について

認定実務実習指導薬剤師と実習施設の一元的把握の整備について

資料8（認定実務実習指導薬剤師養成事業における問題点と改善策の提案）のとおり、日本薬剤師研修センターに申し入れたこと、また議論中であることを望月代表理事が報告した。

5. ワークショップのタスクフォースの高齢化について

ワークショップの回数を増やし、若いタスクフォース育成を行いたいが、費用の問題で難しいとの意見が出された。これに対し、経験豊富なタスクフォースがいるうちに、若いタスクフォースには他地区のワークショップに出席してもらい、経験を積んでもらってはどうかとの提案があった。

また、ワークショップの参加者についても参加資格に50歳以下等の年齢制限を設けてはどうか、それによって近い将来タスクフォースの若返りがはかれるとの意見が出された。

6. 地区調整機構委員会への参加について

最近の数年間には各地区調整機構開催の委員会に薬学教育協議会からの参加がなかったが、今後はより緊密に情報交換する必要性を考え、可能な限り参加することとした。また、文部科学省担当官も参加の意思を示されているので、各地区調整機構は会議日程が決まり次第事務局に連絡して欲しい旨、望月代表理事が述べた。

以上

## 別記 1

## 第 25 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会出席者名簿

| 所属              | 出席者名<br>(敬称略) | 出欠  |
|-----------------|---------------|-----|
| 北海道地区調整機構       | 宮本 篤          | ○   |
| 東北地区調整機構        | 富岡 佳久         | ○   |
| 北陸地区調整機構        | 中川 輝昭         | ○   |
| 関東地区調整機構        | 伊東 明彦         | ○   |
| 東海地区調整機構        | 網岡 克雄         | 欠   |
| 近畿地区調整機構        | 掛見 正郎         | ○   |
|                 | 西野 隆雄         | ○   |
| 中国・四国地区調整機構     | 手嶋 大輔         | 欠   |
|                 | 島田 憲一         | 代理○ |
| 九州・山口地区調整機構     | 原 千高          | ○   |
| 日本薬剤師会          | 生出 泉太郎        | ○   |
|                 | 永田 泰造         | ○   |
| 日本病院薬剤師会        | 遠藤 一司         | ○   |
|                 | 政田 幹夫         | ○   |
| 日本保険薬局協会政策調整部会  | 原 正朝          | 欠   |
|                 | 佐藤 頼子         | 代理○ |
| 薬学教育協議会         | 望月 正隆         | ○   |
|                 | 井村 伸正         | ○   |
|                 | 須田 晃治         | ○   |
| 文部科学省高等教育局医学教育課 | 丸岡 充          | ○   |
|                 | 柴田 佳太         | ○   |
| 厚生労働省医薬食品局総務課   |               | 欠   |

別記 2 配布資料

- 資料 1-1 : 平成 26 年度第 I 期実務実習に関わる各地区の報告書
- 資料 1-2 : 平成 26 年度実務実習割り振り状況 (関東地区)
- 資料 2 : 平成 25 年度実務実習実施結果
- 資料 3 : 平成 26 年度在籍者数一覧
- 資料 4 : 文部科学省委託事業 アンケート調査の依頼および回答数
- 資料 5-1 : 薬学実務実習に関するガイドライン (案)
- 資料 5-2 : 枠組み (案)
- 資料 5-3 : 実習期間 (案)  
(「文部科学省」資料 \*資料 5-1、2 : 会議終了後回収)
- 資料 6 : 各地区におけるふるさと実習に関する現在の問題点
- 資料 7 : 平成 25 年度私立薬科大学 (薬学部) 実務実習の問題点、改善要望事項  
(「日本私立薬科大学協会」資料)
- 資料 8 : 認定実務実習指導薬剤師養成事業における問題点と改善策の提案
- 追加資料 : 第 24 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事録